

第1学年〇組 社会科学学習指導案

指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 教科研究主題 社会的事象に目を向け、主体的に学習に励む生徒の育成

2 単元名 「文明のおこりと日本の成り立ち」

3 単元について

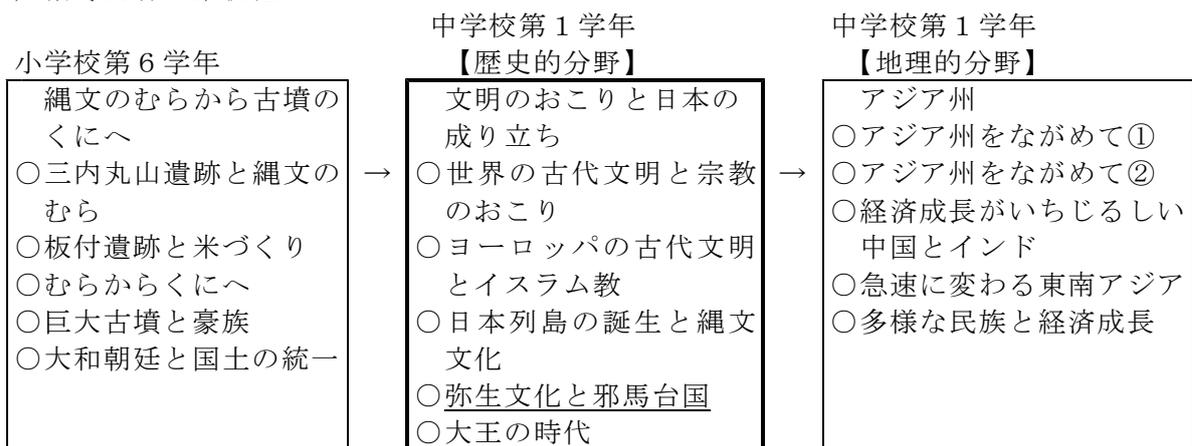
(1) 単元観

本単元は、学習指導要領【歴史的分野】の内容(2)「古代までの日本」における(ア)「世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷による統一と東アジアとのかかわりなどを通して、世界各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。」、(イ)「律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる。」の教材として取り扱うものである。

この時期の日本は、人類の出現から文明の発生へという世界の動きの中で、特に東アジアと深いかかわりを持ち、稲作の伝来によって、生活の変化、社会のしくみの変化がみられた。紀元前後、つまり弥生時代中期から、西日本の各地では、土地をめぐる激しい争いがおこり、争いに勝った集団は、征服した諸集団を配下において小国家を形成した。2世紀末から3世紀中頃に、それらの小国家のうちから台頭した邪馬台国は、その後の統一国家の原形となった。このような国家形成の動きは、漢帝国を中心とするアジアの国際関係のもとで進んでいき、さらに、新しい国家形成の動きが、3世紀末～4世紀にでてきた。

すなわち、近畿から瀬戸内海沿岸に造られた前方後円墳に代表される古墳文化は、それまでの小国家の首長から、いっそう大きな権力をもつ王が出現したことを示している。これらに関しては、三内丸山遺跡、吉野ヶ里遺跡、古墳などの遺跡や銅鐸、金印などの遺物の発見による考古学の成果であり、関係資料も多い。本単元はこれらの資料を活用することで、社会科教育で求められている「適正な資料活用と適正な表現力を身につける授業」「自ら学ぶ授業」の実践に適した教材といえる。

(2) 指導内容の系統性



(3) 生徒の実態 (○人)

本時の授業を行うにあたって、以下の調査を行った。

調査人数○人 欠席なし 調査実施日 平成○年○月○日

1	社会科の学習は好きですか。	
	好き	(人)
	どちらかといえば好き	(人)
	どちらかといえば嫌い	(人)
	嫌い	(人)
2	社会科の学習で好きな分野は何ですか。	
	地理的分野	(人)
	歴史的分野	(人)
	特にない	(人)
3	自分の考えを整理して、文章にまとめることは好きですか。	
	好き	(人)
	どちらかといえば好き	(人)
	どちらかといえば嫌い	(人)
	嫌い	(人)
4	自分の意見や考えを積極的に発表できますか。	
	発表できる	(人)
	だいたい発表できる	(人)
	あまり発表できない	(人)
	発表できない	(人)

< 考 察 >

生徒は小学校6年生で「縄文のむらから古墳のくにへ」の単元で「弥生時代(米づくり)」「くにづくり(卑弥呼)」「古墳時代(大和朝廷)」を学習している。アンケートでは、社会全般が好きと答えた生徒が15人、歴史が好きな生徒が18人、社会全般が嫌いという生徒が22人であったが、先行の地理的分野の学習では、意欲的な態度が目立ち、楽しみながら学習してきた。歴史的分野の学習はまだ日が浅く、資料から社会的事象を読み取り、考える力が弱い。しかし、アンケートで示した通り、歴史に対する興味・関心が高く、繰り返し資料活用することで資料活用能力や思考を伸ばすことができると考える。

本校社会科の研究主題は「社会的事象に目を向け、主体的に学習に励む生徒の育成」である。この目標を達成するには、生徒の主体的な学習活動「自ら学ぶ授業」が行われなければならない。しかし、生徒の主体的な学習活動に欠くことのできない、自分の考えを整理し、文章にまとめることや自分の意見や考えを積極的に発表することに苦手意識を持っている生徒が多い。「どのように説明したらいいかわからない」「うまく伝えられるか不安」などが主な理由である。そこで、本単元では、新聞等の資料を有効に活用し、情報の集め方、調べ方、まとめ方、発表の仕方などを学ばせ、知識だけを教え込むのではなく、生徒たちの主体的な学習を目指していきたい。

4 目 標

- (1) 古代の歴史的事象に関心をもち、主体的に調べ学習を行い、課題を解決しようとしている。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 新聞記事や当時の文献資料を読み、遺跡・遺物の模型や写真の観察から古代の歴史的事象を調べることができる。
(資料活用の技能・表現)
- (3) 古代の歴史的事象をとらえ、多面的・多角的な見方や考え方で歴史的背景について考察できる。
(社会的な思考・判断)

- (4) 人類が出現し古代文明が生まれたこと，日本列島で人々の生活が農耕の始まりで変化したことを理解し，国家の形成過程を東アジアとのかかわりをふまえて説明できる。
(社会的事象についての知識・理解)

5 指導計画 (7時間扱い 本時は6時間目)

時間	学習内容	支援・指導上の留意点	評価と方法
2	○世界の古代文明と宗教のおこり	○人類が進化してきた過程や人類の特徴を理解させる。 ○農耕・牧畜によって社会が変化し，文明がおこったことに気づかせる。	○人類の進化の過程について，とらえることができたか。 ○旧石器時代と新石器時代のちがいをとらえることができるか。 (ワークシート，観察)
1	○ヨーロッパの古代文明とイスラム教	○世界文明の特色を，生活技術の発達や文字の使用などを通して理解させる。	○文字や金属器の使用など，世界各地でおこった文明の共通点について気づくことができたか。 (ワークシート，観察)
1	○世界の古代文明と宗教のおこり	○ギリシャ・ローマの文化と政治や社会のしくみについて理解させる。 ○キリスト教やイスラム教の広がり，役割について理解させる。	○中国の古代文明について，殷から漢までのながれを理解できたか。 (発表)
1	○日本列島の誕生と縄文文化	○縄文時代の人々の生活の様子を，考古学の成果を活用しながら具体的に理解させる。	○様々な資料から，日本列島で狩猟・採集の生活を行っていた人々の生活の特色についてとらえることができたか (発表，観察)
1 本時	○弥生文化と邪馬台国	○弥生時代の人々の生活の様子を，考古学の成果を活用しながら具体的に理解させる。	○様々な遺物や遺跡，文献などから，弥生時代の人々の生活の特色をとらえることができたか。 (ワークシート，観察)
1	○大王の時代	○大和地方を中心に国内が統一されたことを，古墳の広まりを通して理解させる。	○遺物や遺跡などの具体的な資料を通して，古墳文化の特色をとらえることができたか。 (発表，観察)

6 本時の指導

(1) 目標

- 資料に関心をもち，弥生時代の社会について意欲的に調べることができる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 農耕の広まりとともに弥生時代の人々の生活が変化していったことを考えることができる。
(社会的な思考・判断・表現)

(2) 展 開

※評価に関する支援 ©評価と方法

学 習 活 動 と 内 容	時配 形態	支援・指導上の留意点と評価	資料・教具
1 「弥生土器」の模型を見て、縄文土器との違いについて考える。 赤かっ色，うすい，かたい，かざりが少ない。 2 本時の学習問題をつかむ。	5分 一斉	○東京の本郷元町で発見されたことで名づけられ，この形状の土器がつくられた時代を「弥生土器」としたことを説明する。 ○何人か指名し，発表させる。 ※意欲が散漫な A 男に積極的に発表するように促す。	土器の模型
弥生時代の人々はどのような生活をしていたのだろうか。また，縄文時代に比べ，人々の生活はどのように変わったのだろうか。			
3 「弥生土器」の新聞記事や写真 その他資料から，当時の人々がどのような暮らしをしていたかを班で話し合い発表する。 ○食べ物→米，動物，魚，貝，山菜など ○道具や施設→弥生土器，高床倉庫，水田，米づくりのための道具など ○住居→ たて穴住居	20分 班	※ワークシートに班で話し合ったことを記入させる。その際，縄文時代と弥生時代の人々の暮らしと比較させ，違いに気づかせる。 ※班での話し合いが苦手な A 男，B 男，C 女→個別指導	新聞記事・ 写真 教科書 資料集 ワークシート
4 「稲作のようす」(資料⑩)を見て気づいたことを発表する。 ○大勢の人が協力して作業をしている。 ○役割分担が決まっている。 ○水田が区画されている。	5分 一斉	○自由な雰囲気発表させる。 ○稲作は，大陸に近い北九州に伝わり，その後西日本に広まったことを補足説明する。	資料「稲作のようす」
5 稲作の始まりによって，人々の生活がどのように変化したのかを予想し，発表する。 ○食料のたくわえ ○水田近くにむらをつくって定住 ○貧富の差が発生 ○指導者の出現	15分 個別	○ワークシートに個人の予想を記入させる。 ◎稲作が始まったことにより，人々の生活にどのような変化が起こったのかを考え，発表することができたか。 (観察・ワークシート)	ワークシート 資料集
6 本時のまとめをする。	5分 一斉	○生活の変化が，くにの形成につながることを押さえ，次時につなげる。	

